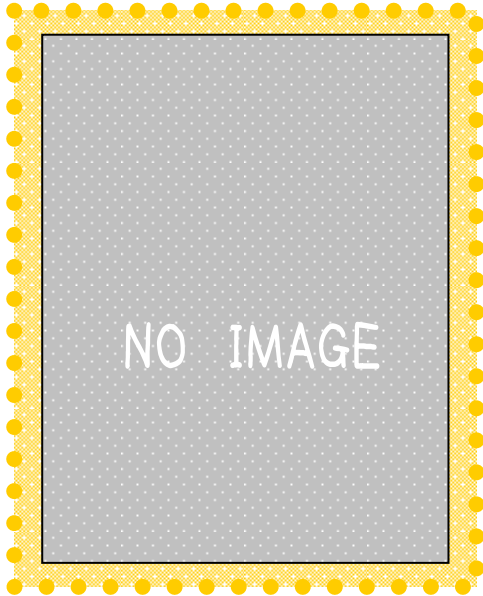


## 今回のおすすめメニュー



### 『カモメに飛ぶことを教えた猫』

ルイス・セプルバダ 著  
河野万里子 訳  
白水社

請求記号：963セ 所蔵館：中央・勝連

### ちょっとあじみ

銀色の翼のカモメ、ケンガーは海面に広がる原油の黒い波に襲われ身動きがとれなくなってしまう。必死で抜け出し、羽ばたき続けますが、とうとう力尽きて落下してしまいます。そこにいたのは、太った真っ黒な猫、ゾルバでした。自分の死を覚悟したケンガーは、最後に力をふりしぼって、卵を産みたいというのです。そして、3つのことを約束してほしいとゾルバに頼みます。

わたしが産む卵はたべないと約束してください。

ひなが生まれるまで、その卵のめんどうを見てください。

ひなに飛ぶことを教えてやると、約束してください。

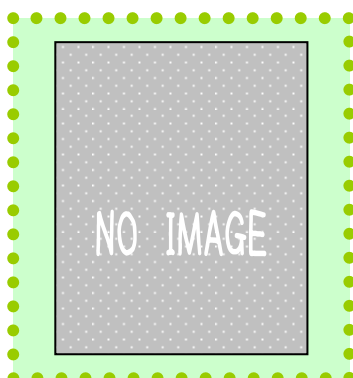
カモメと猫、異なる種類のなかで交わされた約束。ゾルバはケンガーとの約束を全力で果たそうとします。そして、個性的な、港の猫の仲間たちがゾルバとひなを見守り助けます。飛ぶことのできない猫たちが、カモメに飛ぶことを教えることができるのでしょうか？



『カモメに飛ぶことを教えた猫』の中で、詩人が大きな役割をはたします。ゾルバはその人の詩を聞いて、信頼できる！と思うのです。どんな詩だったんだろうな…



詩集を1冊紹介します。こちらも、あわせてどうぞ！



### 金子みすゞ童話集 『わたしと小鳥とすずと』

金子みすゞ 著  
JULA出版局

請求記号：911カ 所蔵館：中央・勝連